

# 社会参加型の福祉事業の新しい形

NPO法人 山形自立支援創造事業会

## みちのく屋台「こんにやく道場」

「さあー、いらっしやい、いらっしやいませ。」「どうもありがとうございませ。」「また、よろしくお願ひします。」今日も元気いっぱいの大きな声が、市内のどこかのスーパーにひびきわたる。山形名物の玉こんにやくを移動販売している軽度障がい者の若者達がいる。その名も、「みちのく屋台「こんにやく道場」」。

平成19年12月に、山形市で起業したのが代表の齋藤淳さんである。彼は、かつて県立高等養護学校寄宿舎指導員をしていた。卒業生の数人が一般就労になじまずに会社を辞めてしまい、自宅待機を余儀なくされていることを知り、養護学校を辞めてこの道に入った。「自ら生活体験から、障がい者に再度

温和な齋藤淳さん  
事務所にて



チャレンジできるチャンスを与え、働く場の提供をしたい。」「社会参加型の福祉事業を新しい形で展開していきたい。」と温和な人柄で、語る。熱き思いが齋藤さんの心を決意させた。

当初、集まった卒業生は6名。全員男性で、各市町村から集まり、保護者とともに企画、商品開発、調理、販売方法、接客など自分達の能力に応じて分担した。今日ある「玉こんにやく移動販売」までには、人知れない多くの苦労と試行錯誤を重ねた。今年4月からは女性も加わり、正に男女共同での作業となり、みんな楽しみ生きがいを求め、事務所に出勤してくる。

販売商品は、ピンポン玉に似た「玉こんにやく」、煮卵をはさんだ「玉こんにやく」、玉こんにやくより卵の数が多い「メガ玉こんにやく」と3種類がある。味つけもタレとだしを独自に研究した。しょう油味でポピュラーな深い味が、子供から大人まで評判で、スーパー等の販売日には、行列が出来る程の人気と



白とオレンジがトレードマークの移動販売車。事前に注文があれば配達します。



なった。なじみ客も日増しに多くなり、販売日を指折り数え待つお客様もいるとか。  
**今まで移動販売をして、大変だったこと、うれしかったことはどんなことですか？**

第一に、地域の方々と日々接することで、社会の一員として自他ともに認められること。  
第二に、直接お客様とやり取りをする中で、礼儀作法等、社会で生きていくための力を養えること。  
第三に、移動販売によって、住民と接する機会が増えることで、同じような障がいのある子を持つ親に、夢や希望を与えられること。  
\*



仕込み中

### みちのく農園をも体験 若宮地区に開園

りをもットーに、日々頑張つて取り組んでいる)  
◎販売担当 今野剛さん(人と話すことが大好きで、あまり話して夢中になり仕事を忘れる一面も)  
◎販売担当 鬼海信光さん(メンバーで一番の疲れ知らずで何時間でも直立不動の体制でがんばれる)  
**新メンバー**  
◎販売担当 無着夏子さん(いつも明るい笑顔で絶やさぬ。メンバーで一番若く元気いっぱい)  
◎調理担当 永登景子さん(料理名人で仕込みを担当。まめな性格でゆで卵の殻むきはピカイチ)  
◎畑担当 後藤美香さん(おっとりとした性格ですが、みんなをまとめてくれる、心強い人)  
**そして**  
メンバーのかたわらで、時には厳しく、時にはやさしくみんなを励ます代表の齋藤淳さんと支援スタッフの石澤尚子さん。いつもメンバーの背中を後押しして笑顔で見守っている。

食堂等から毎日のように出る廃食材を何とか再利用し環境にやさしいエコを考え、野菜づくりにも力を入れ始めた。廃食材をコンポスト化して肥料と混ぜ、カボチャ、枝豆、ズッキーニなど、多種類の野菜を作っている。今年からは玉こんにやくのもととなる、こんにやくいもも栽培し、自給自足を目標にやきいもも栽培し、自給自足を指す。農作業は、決して楽なことではない。季節の野菜作りは苦勞もあるが、楽しみながら収穫の喜びと、食への感謝を体感している。一生懸命に草取りをし、収穫している彼らの姿は生き生きとして、笑顔であふれていた。  
今後は地産地消ではなく、地産地商で皆さんに商品として食べてもらいたい。また、ECO農園のオーナー制度なども検討中で、みんなの夢は広がる。

### 取材を終えて

以前、宿舎において寝食を共にし、家族同様の生活を送る日々の中で、何か彼らと一緒に出来ないかと齋藤淳さんが立上がった。この道場に託す思いは、山よりも高く海よりも深い。健常者でも出来ない事を、着実に一歩、歩を進ませている。障がい者として決してしりこみしないで真正面から向き合い、同じ障がい者の励みとなるよう、これからはがんばってほしい。一日も早い就労の自立を願わねばならない。4月から営業部門担当の夏ちゃんに「がんばっているね」と声をかけると、笑顔で「ありがとっ。」と素直な声が返ってきた。陰で見守るお母さんの姿が、今も目に焼きついてはなれない。周りの応援が彼らの一番の支えになる。このメンバーに幸多かれと思いつつ、取材現場を後にした。(編集協力員 松田利紀史)

雨の中、ヤマザワ松見町店での販売



ホタテのヒモを入れるなどして味をグレードアップ、おいしい味をいつまでも守ってきたい。同情心で買っていただくのではなく、あくまで味で勝負したい。  
**定着しつつある「こんにやく道場」**  
スーパー出店当時は、大声で呼び込む声に、小さい子供が泣きだしたり、びっくりして耳もとに手をあてることもあった。注文を間違ったりおつりを間違ったりと、いくつもの失敗があったが、常に地域の方々が教えてくれた。「もつと小さい声で優しくね。」とか、「おいしいから買いに来たよ。」と、知らず知らずのうちには叱咤激励をしてくれた。そのことばが彼らの勇気を起こす何よりの原動力ともなった。地域の方々はよき指導者で



農園で収穫

もあった。今ではすっかり地域の方々と一緒に行動ができるようになり、販売の合間には、買いに来てくれた子供達と一緒にしゃぐなど、やさしく思いやりのある心を持つまでに育ってくれた。  
**個性豊かなメンバーに支えられて**

- ◎総括部長 後藤雄兵さん(責任感が強く、記憶力バツグンで営業や仕込みを担当、みんなのまとめ役)
- ◎営業部長 鈴木健也さん(さまざままなパフォーマンスで売り手上手、ファンも増えてきました)
- ◎調理部長 奥山悠人さん(こんにやく道場の玉こんにやくの味を確立した人、味にふれがなく、毎回同じ味をだせる)
- ◎畑部長 横尾尚さん(安全で、安心して食べられるおいしい野菜作



みんなで力を合わせて作った野菜の数々